

平成18年度八重山群島病害虫発生予報第2号(5月予報)

5月の気象予報 要素別予報

要素	気温	降水量	日照時間
予報	並～高	並	並～多

(平成18年4月28日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平均値

要素	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	23.2	25.8	21.0	153.9	137.2

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

5月の発生予報

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

八重山群島

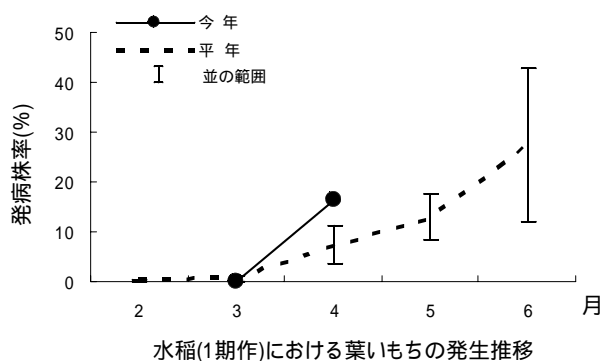
1 水稲1期作

(1) 葉いもち

発生程度： やや多

予報の根拠

- a 4月下旬の調査の結果、発病株率は16.5%(平年7.4%)と平年よりやや高かった。
- b 気象予報によると降水量や日照時間は平年並の見込みで、梅雨期に入るため、発生は多くなると予想される。
- c 一部圃場では葉いもちのずり込み症状が見られた。



防除上注意すべき事項

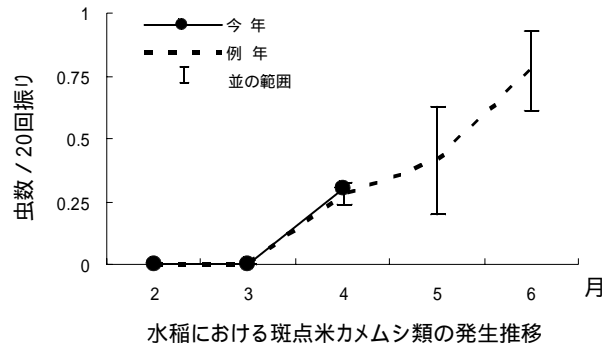
- a 上位葉に病斑が目立つ場合は、穂いもちに移行する可能性が高く、早期防除に努める。
- b 窒素肥料の多用、特に常発地では穂肥の多用を避ける。

(2) 斑点米カメムシ類

発生程度： 並

予報の根拠

- a 4月下旬の調査の結果、捕虫網によるすくい採り虫数は20回振り当たり0.30頭(例年0.28頭)と例年並であった。
- b 斑点米の原因とされるカメムシ類のうち、クモヘリカメムシを確認した。



防除上注意すべき事項

- a 水田周辺及び畦畔の雑草は、繁殖・飛来源となるので出穂2週間前までに除草する。
- b 出穂期以降に圃場に侵入し、吸汁加害するので適期防除に努める。
- c 防除は穂揃期とその7～10日後の2回を目安に行う。

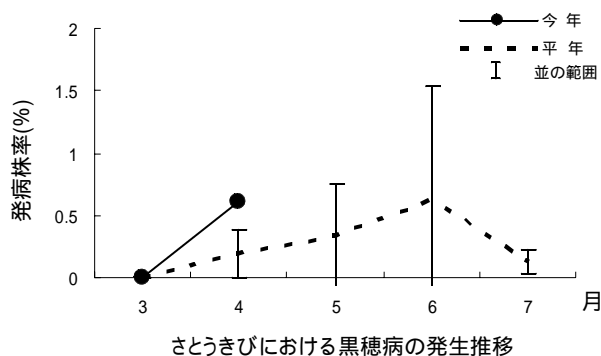
2 さとうきび

(1) 黒穂病

発生程度： やや多 (石垣島)

予報の根拠

- a 石垣島における4月下旬の調査の結果、発病株率は0.6%(平年0.2%)と平年よりやや高かった。
- b 石垣島における発生圃場率は16.9%であった。
- c 農林9号の株出圃場で発生が多かった。



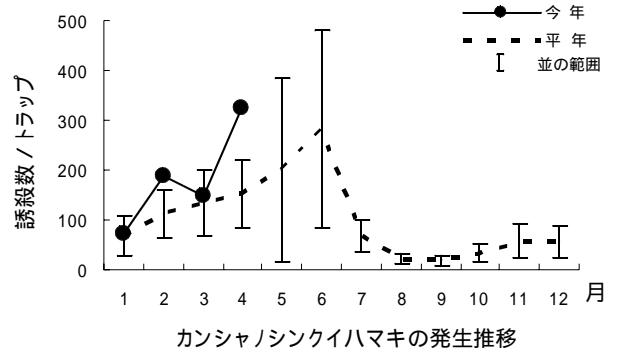
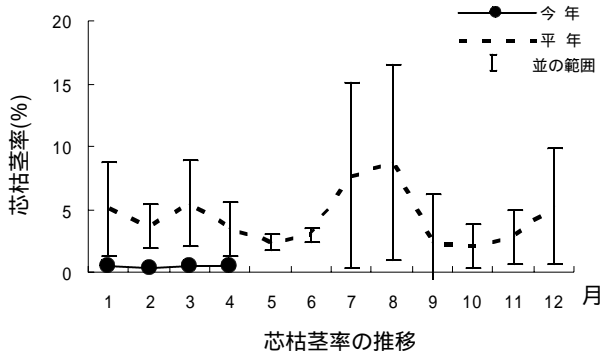
防除上注意すべき事項

- a 発病株は鞭状体の出現前に抜き取り焼却する。
- b 特に株出圃場では今後の発生動向に注意し、早めに抜き取り処分する。
- c 鞭状体の出現した茎は孢子の飛散を防ぐために、ビニール袋を被せて抜き取り処分する。
- d 発生圃場や隣接圃場から採苗しない。
- e 多発生圃場や放棄圃場は早急に更新する。
- f 抵抗性品種を植え付けるようにする。
- g 苗の薬剤浸漬処理を行う。

(2) メイチュウ類

発生程度： 並
予報の根拠

- a 4月中旬の調査の結果、芯枯茎率は0.5%(平年3.4%)と平年よりやや低かった。
- b 4月のカンシャノシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は325頭(前年194頭、平年153頭)と平年より多かった。



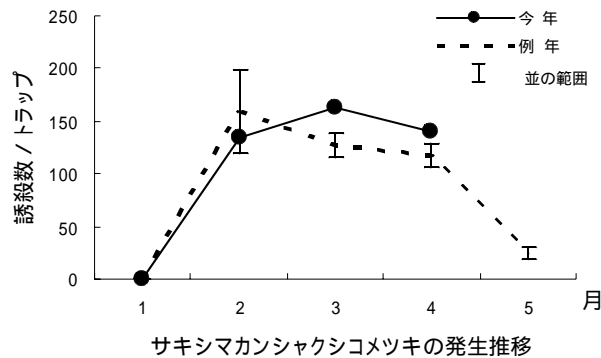
防除上注意すべき事項

- a 加害による芯枯れを防止し、有効茎を確保するために生育初期の防除に重点を置く。
- b 植え付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

(3) サキシマカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ)

発生程度： やや多
予報の根拠

4月のサキシマカンシャクシコメツキ合成性フェロモンによるトラップ当たりの誘殺数は141頭(前年107頭、平年117頭)と平年よりやや多かった。



防除上注意すべき事項

- a 更新圃場は速やかに古株等の残渣を処理し、植付時までには数回耕起して幼虫密度の低下を図る。
- b 植付時に植え溝に薬剤処理を実施する。苗の薬剤浸漬も有効である。
- c 立毛時の防除は幼虫のふ化最盛期から50日の間(4月中・下旬～5月下旬)に培土や中耕等の耕種的防除と組み合わせた薬剤防除を行う。

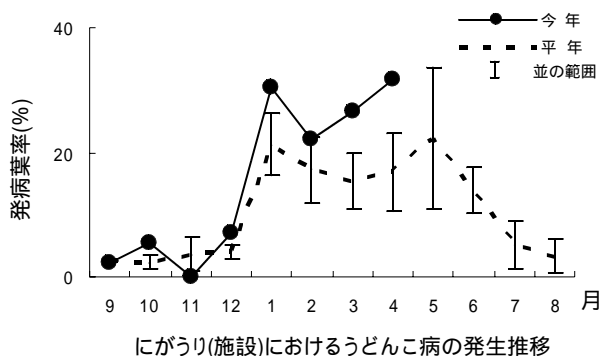
3 iga(施設)

(1)うどんこ病

発生程度： やや多

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、発病葉率は31.8%(平年16.8%)と平年よりやや高かった。



防除上注意すべき事項

- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 密植を避け、透光通風を良くする。
- 老葉や病葉は発生源となるので、ビニール袋等に入れて密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難になるので葉裏等を良く観察し、早期発見、早期防除に努める。

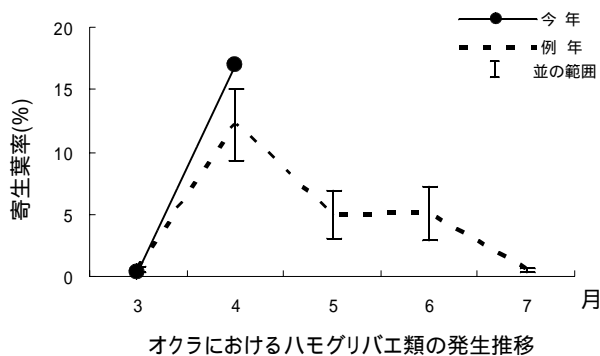
4 オクラ

(1)ハモグリバエ類

発生程度： やや多

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、寄生葉率は17.0%(例年12.2%)と例年よりやや高かった。



防除上注意すべき事項

- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し処分する。

平成18年4月1日より病害虫防除所は、ミバ工対策事業所と統合し「沖縄県病害虫防除技術センター」として始動しました。また、新たに北部駐在が設置されました。

つきましては、問い合わせ先が以下のとおりに変更になりましたので、お問い合わせの際は
お間違えのないよう、宜しくお願いします。

また、ホームページにつきましては、現在、統一作業を進めている段階です。しばらくの間、
毎月の発生予察情報は、これまでの病害虫防除所のホームページにて掲載していきます。

は <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県

沖縄県病害虫防除技術センター

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 ☎ 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
北 部 駐 在	〒905-0019 名護市大北1-16-15 ☎ 0980-51-1537 FAX 0980-51-1538
宮 古 駐 在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40 ☎ 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八 重 山 駐 在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6 ☎ 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157